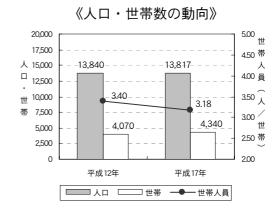
5-2 金田地域

(1)地域の概要





1) 人口・世帯数 (国勢調査より)

市全体の17.5%の市民が居住し、世帯数も全体の16.3%を占めています。人口は減少していますが、世帯数は増加傾向を示しています。

世帯数の増加に伴い、世帯人員は減少しています。

2) 土地利用

大田原都市計画区域に指定されており、地域の一部が用途地域に指定されています。

は場整備が行われた優良農地が広がる田園地域で、平野に広がる水田の中に集落が点在しています。また、羽田沼や丘陵地などの豊かな自然資源を有した地域です。

用途地域に指定された地域には中田原工業団地が整備されており、準工業地域には医療機関の進出が予定されています。

その他にも、幹線道路沿道に国際医療福祉大学や那須与一伝承館などの教育・文化施設が整備されています。

3)交通

3環状の内環状線、外環状線であるライスライン、8放射の一角を成す国道 400 号、461 号、主要地方道大田原芦野線、大田原高林線、県道中田原寒井線、親園南金丸線を中心とした道路網が整備されています。

また、奥沢バイパスが開通し、通勤・通学等の渋滞緩和が図られています。

4) 拠点施設等

教育・文化・歴史拠点として国際医療福祉大学、那須与一伝承館、小中学校、那須与一ゆかりの那須神社が整備されており、産業拠点として道の駅那須与一の郷、中田原工業団地、生活拠点施設として金田北地区公民館、金田南地区公民館が整備されています。

また、羽田沼を含むミヤコタナゴ生息地保護区、ザゼン草群生地、金丸緑地環境保全地域などの貴重な自然環境を有しています。

5) 日常の生活圏 (平成19年度市民意識調査より)

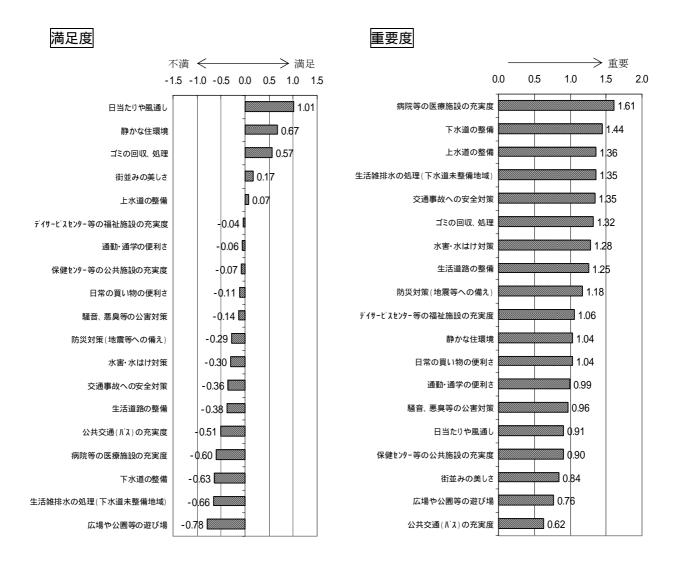
アンケート結果では、日々の買い物によく行く場所が「市中心部の大型店」36.6%、「幹線道路沿いの大型店」26.1%、「市中心部の小売店」9.8%となっています。

7割以上の住民が隣接する大田原地域と回答しており、買い物等の生活拠点が大田原地域となっている状況が伺えます。

6) 各施策の満足度・重要度 (平成 19 年度市民意識調査より)

金田地域では「日当たりや風通し」の満足度が最も高く、次いで「静かな住環境」「ゴミの回収、処理」となっています。反対に最も満足度が低い項目は「広場や公園等の遊び場」で、次いで「生活雑排水の処理(下水道未整備地域)」「下水道の整備」となっています。

重要度が最も高い項目は「病院等の医療施設の充実度」で、次いで「下水道の整備」「上水道の整備」となっています。



7) 市民意向のポイント (市民意識調査の結果及び地域別説明会の意見を集約)

- 農地・自然環境の保全
- 大学周辺部における都市的土地利用の推進
- 道の駅の活用
- ライスラインを活かしたまちづくり
- 大学生の通学路、歩道の整備
- 上下水道の整備
- 自然災害に強いまちづくり
- 観光資源としての羽田沼の整備・活用
- 子どもが遊べる公園の整備
- 良好な住環境の維持



《金田地域に広がる良好な農地》

(2) まちづくりの目標

《将来像》

自然・文化・福祉を育むふれあいのまち 金田地域

- ◎ 田園空間と調和した快適な居住環境の形成
- ◎ 自然・文化・福祉拠点の整備・充実による活力の創出

(3) まちづくりの方針

- ◇ 中田原工業団地における医療施設の誘導と医療拠点づくりの推進
- ◇ 中田原工業団地における企業誘致の推進及び緑地帯等のオープンスペースの確保による 周辺環境と調和した操業環境の形成
- ◇ 開発需要が見込まれる内環状線沿道及び中田原工業団地周辺部における用途地域の新規 指定の検討
- ◇ 無秩序な都市的土地利用の拡大防止に向けた特定用途制限地域の指定の検討
- ◇ 公共下水道の計画的な整備及び公共設置型浄化槽整備事業の推進
- ◇ 農業集落排水の適切な管理
- ◇ 人口の確保に向けた生活基盤の整備による快適な集落環境の形成
- ◇ 田園環境と調和したゆとりある住宅地の形成に向けた最低敷地面積等の設定の検討
- ◇ 国際医療福祉大学、道の駅、羽田沼等の文化・交流拠点を活用した活力創出に向けた取り組みの検討
- ◇ 多様な主体の参画による田園・丘陵地・湖沼など 豊かな自然環境の保全・管理
- ◇ 優良農地の保全・活用及び耕作放棄地の発生防止 に向けた取り組みの推進
- ◇ 歩道整備による安全・安心な歩行空間の確保
- ◇ 水害防止に向けた河川・水路の整備・改修の推進
- ◇ バス・タクシー等の既存交通の連携による公共交通ネットワークの充実



《道の駅 那須与一の郷》

《金田地域 構想図》

